

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	愛心子どもの家			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 5日		～	令和7年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 20日		～	令和7年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員は皆子どもが好きで、寄り添いながら認めながら関わることができる。	・子どもの自己選択・自己決定を大切に、子どもに「どうしたい？」をきくようにしている。 ・子どもの感情に共感しながら関わっている。 ・子どものいいところ、できているところなどプラス面に注目して認めながら関わっている。	・より個別に関われるようにしていく。
2	・建物の外（敷地内）にスペースがあり、走ったり、縄跳びなどができ、砂場の設置もあり、子どもがのびのびと動ける環境が整っている。	・外遊びができる時間帯を設定し、職員は子どもの主体的な行動を待ちながら共感的に接している。	・日頃はしない活動の設定や新たな遊びの提案をしたり、ヒントを出したりして幅広く活動ができるようにしていければよい。
3	・体験型のイベント（果物狩り、餅つきなど）を保護者・きょうだい参加型で行い、体験をしながら交流がもてるようにしている。餅つきは、地域の方にも協力をいただいている。	・参加は任意とし、本人、保護者の意思にお任せしている。 ・事前の情報提供はなるべく丁寧に行っている。 ・イベント当日は、気軽に活動できる雰囲気づくりをしている。	・本人、保護者の負担の少ない範囲で楽しめる活動を模索していきたい。
4	・保護者との個別の相談ができる。	・送迎時の報告や相談などを行っている。 ・必要に応じて随時相談ができるようにしている。	・余裕のある人員配置をしていき、引き続き行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の場が少ない。	・事業所での支援の内容や「このようにしたらいいですね」は必要に応じて話はしているが、情報提供や学ぶ機会がない。	・研修会の開催を検討していき、共に学んでいけるようにしたい。
2	・相談支援事業所や他事業所との連携が足りない。	・職場内で考えることが先決となっている。 ・気軽に相談できる横の繋がりが薄い。	・積極的に自分たちから関係機関にアプローチしていく。
3			